

平成 30 年度 第 5 回大垣市社会教育委員の会 議事録

日 時	平成 30 年 12 月 18 日 (火) 10 : 00 ~ 11 : 30
場 所	大垣市情報工房 2 階会議室 4
次 第	<p>1 開会のことば</p> <p>2 「大垣市民の誓い」朗読</p> <p>3 教育長あいさつ</p> <p>4 議事</p> <p>10 : 00 ~ 10 : 10 「大垣市民の誓い」朗読、教育長あいさつ</p> <p>10 : 10 ~ 10 : 30 モデル地区 (静里) の発表、質疑応答</p> <p>10 : 30 ~ 11 : 15 各地区の交流「今年度の成果」</p> <p>11 : 15 ~ 11 : 25 DVD 鑑賞 (東海北陸大会アトラクション)</p> <p>11 : 25 ~ 11 : 30 諸連絡等</p> <p>5 閉会のことば</p>
出席者【委員 7 名、事務局 11 名、計 17 名】	
・委員	
三宅 治、竹中 昌子、平野 宏司、安田 義明、小藪 卓郎、岩下 里美、 神谷 利行	
・事務局	
山本 譲 (教育長)、守屋 明彦 (教育委員会事務局長)、安藤 亨 (まちづくり推 進課長 兼 市制 100 周年記念事業推進室長)、杉田 昭子 (市民活動推進課長)、 山下 直人 (教育庶務課長)、中井 正幸 (文化振興課長)、堀 恭寿 (社会教育ス ポーツ課長)、中山 健一郎 (社会教育スポーツ課参事)、窪田 美保 (社会教育ス ポーツ課主幹)、山田 嘉隆 (社会教育スポーツ課主査)、小原 良次 (社会教育指 導員)	
欠席者【委員 3 名、事務局 3 名】	
河村 義子、益川 浩一、松山 昌代、坂 隆 (キッズピアおおがき子育て総合支援 センター所長 兼 南部子育て支援センター所長)、浅井 靖弘 (子育て支援課長)、 細江 敦 (学校教育課長)	
傍聴者【1 名】	
事務局	開会の言葉
全員	「大垣市民の誓い」朗読

教育長	<p>あいさつ</p> <p>日ごろのお礼、東海北陸大会の運営（大垣市が会場、アトラクション等）に対するお礼。</p> <p>今年1年を振り返ると災害の多い年であったことが印象に残る。地震、台風、熱中症など、自然の猛威がますます増している思いでいる。そうした中、先進的に社会教育推進事業として、防災に取り組んでいただいている地域もあるが、社会教育でも防災が大きな課題になっている。</p> <p>今日の委員会では、今年のモデル地区の一つである静里の発表をしていただくと共に、各地区の社会教育推進事業について、実践交流していただく。社会教育委員さんと社会教育推進員さんの積極的な意見交換をお願いしたいと思う。年1回の合同の会議なので、充実した会議になることを願い、あいさつとする。</p>
事務局	<p>ここからの議事進行は、三宅議長にお願いする。</p>
議長	<p>先日の東海北陸社会教育研究大会においては、社会教育委員さん、社会教育推進員さん、事務局の皆さんには本当にお世話になった。この場を借りて、お礼を申し上げる。県の反省会でも素晴らしい会であったとお礼をいただいた。</p>
	<p>※ 審議会公開の報告</p> <p>※ 傍聴人の許可（この日の傍聴人は「1名」）</p>
議長	<p>議事に入る。本日は、合同会議である。社会教育委員の皆様は市全体の社会教育振興計画と見届けが大きな役割の一つである。今日は実際に地区で実践されている推進員の皆様の声に耳を傾け、振興計画の振り返りに生かしていただければありがたい。推進員の皆様は、モデル地区の実践に耳を傾けていただくと共に、グループ内での発表や交流で、特によかったことをお互いに取り入れていただければありがたい。</p> <p>それでは、ここでモデル地区である静里地区の発表をお願いする。</p>
発表	<p>静里地区で8月に行われた「静里夏祭り」について、実践を発表する。夏祭りは、他地区でも盛大に行っているの、今さらという感じではないが、静里地区は昨年から2回目である。この経緯を実践発表という形で報告させていただく。</p>

まず、静里地区の社会教育であるが、静里では社協のメンバーから社会教育推進員が選ばれる仕組みになっている。事業に関しては、すべて社協の行事と重なっているのも、協力体制、金銭面ですべて社協と一緒にしているのも、それほど苦労したことはない。この夏祭も社協の行事として行い、そこに社会教育推進員として入って行っている。

なぜ夏祭りをやろうと思ったかは、次の理由である。静里には14の自治会があり、かつてはすべての地区で行っていた。しかし近年、夏祭りをを行う地区は減り、現在では、2、3地区になってしまい、何とか復活をしたいと社協の中では意見が出ていた。また、地域でのつながりも薄れ、一人暮らしの老人が熱中症で亡くなり、なかなか発見されなかったという事例もあった。支援ネットワークなども立ち上がってはいるが、隣近所で声を掛け合い、少しの変化に気づけるようなつながりを求めている時期でもあったので、夏祭りは人のつながりの再構築の一環とされていた。

昨年度、第1回静里まつりを行った。PR活動も、準備も十分ではなかったため、夏休みの恒例の綱引き大会に合わせて行った。防災意識を高めるための五右衛門風呂、簡易テントの設営、牛乳パックを利用したホットドッグづくりをはじめ、バザー、農機具体験、昔の遊びを行い、それなりに人は集まり、楽しむことができた。

今年度は、もう少し規模を大きくしようとの思い、夕方から盆踊りを行うことになった。盆踊りに、どれだけの人が集まるか不安はあったが、役員への盆踊りに対する思いは強く、踊りをメインに仕組むことになった。夕方からの活動になるので、昨年と活動を変えて、防災コーナー、昔の遊びは無くして、その代わりに小中学生に合唱等を披露してもらい、その後、盆踊りという運びにした。バザーは去年に比べ品目を多くして、他団体にも協力していただいた。皆さんで準備をして、夕方5時にスタート、6時半から8時ぐらいまで盆踊りとした。その後、片付けと掃除をしたが、やりきれなかったゴミ拾い等は、次の日の朝にスタッフで行った。

予算もなかったため、多くの備品はお借りしている。櫓も地域の建設会社をお願いして、材料を借りて、スタッフで組み立てた。太鼓演奏等のステージに使ったパレット（少し高い台）も、地元の（株）日本耐酸壇工業から借りて設営した。フォークリフトの運転は、役員で免許をもつものが運転した。また、少し前に綾里地区の夏祭りが行われていたため、スタッフ全員で見学に行った。その結果、座る所（ベンチ等）があるとよいとなり、綾里から借りることになった。同様に、飲食できる椅子等も綾里から借りることができた。

アトラクションとして行ったのは、西高校の和太鼓部の演奏だ。夕暮れと

はいえ、とても暑い中、演奏が行われた。西高校は静里社協のメンバーになってもらっている。そのため、夏祭りだけでなく、敬老会でも和太鼓部には演奏をしてもらっている。ダンディーズの演奏もあった。ダンディーズは静里地区で活躍するトークソンググループである。民踊少年団にも踊ってもらった。特に盆踊りの見本として踊ってもらった。

アトラクションの開始と共にバザーも始めた。バザーは、かき氷、焼きとうもろこし、冷やしパイ、フランクフルト、みたらし、飲み物を準備した。会議では、いろいろ案が出たが、無理のない範囲で販売することになり、これらの品目となった。またこれらの販売は、すべて社協に加盟している団体が引き受けてくれた。例えば、かき氷はPTA、焼きとうもろこし、冷やしパイは体育振興会、フランクフルトは福祉推進員、みたらしと飲み物はかがやきクラブ（老人クラブ）にお願いした。おかげでほぼ完売だった。

盆踊りも着物で踊る方や、民踊少年団の子たちが中心だったが、少しずつ踊りの輪も広がって、最終的には見ている人が少ないくらいになり、ほとんどの人が輪に加わるようになった。子どもたちには、腕に光る輪を付け、踊った子にはお菓子をあげることにした。19時半ぐらいには、お菓子をあげて子どもたちは解散した。残った大人は20時過ぎまで踊り続け、名残惜しい中、盆踊りを終えることができた。踊りに関しては、太鼓も上手にたたいていただけて、大盛況だった。

準備の話題に戻る。放送機器、盆踊りの曲も借りている。太鼓、紅白幕も現在夏祭りを行っている地区から借りてきた。曲目もUSBを手に、その自治会に出向いてお願いした。多くのを借りたこともあり、予算的には、かなり抑えることができた。

活動を終えて、感じたことは「継続することの大切さ」である。今年は知らなかったのが、来年参加したいという声も聞いている。そうした期待を励みに、何とか継続したいと静里地区で願っている。スタッフの反省会でも、大きな問題は出なかった。ただ、私個人としては、昨年行ったような「防災意識を高める活動」や「子どもたちが参加できるアトラクション」のコーナーを設けると面白いと考えている。

また、静里地区では、毎年11月に「Enjoy 静里」を行っている。これは、大人をターゲットにした行事であったが、今年度はこれをなくし、夏祭りに統合した。「Enjoy 静里」は、PTAを卒業された親の世代、40代、50代の忙しい世代を何とか地域行事に参加させたいとの願いで始まった行事である。しかし、目指していた世代は、なかなか集まることがなかった。結果的には、単独で行うよりも、夏祭りに重ねて行うことが、参加者を増

議長	<p>やすことになったと思う。今後は、こうした世代にもっと PR して、参加を促したい。この世代に活躍してもらうことは、次の社協の担い手にもなると思う。</p> <p>いずれにしても、何か行事を創り上げることで、地域の絆を深めることになる。またお互いに知り合う場、発見する場でもある。こうした意義を確かめ、大変ではあるが、今後も続けていきたい。</p> <p>単位自治会の夏祭りが衰退していき、人間関係が希薄化していくことを止めることを目指して、2年目に入った発表を聞かせていただいた。質問等があればお願いしたい。</p>
委員	<p>静里なら様々な店がある。地区として、協賛金を募り、参加者に景品を配るといったことができれば、参加者は多くなるのではないか。協賛金は集めるのが大変だが、自分の地区は30万近く集めることができた。こうしたことも一つの方法かと思う。</p>
議長	<p>静里地区の発表であったが、大きなポイントがある。各地区には地区センターがある。地区の人が寄り添う場所があると活動がしやすい。しかし、静里は研修センターがあるが、地区センターがない。こうしたことを考えるとこの取り組みが、いかに大変だったかを私の経験からも感じる。雨が降ったら、風がひどい時は、といった対応も、地区センターがないと非常に面倒である。少しでも早く地区センターができることを願うと共に、こうした中で夏祭を実現されたことに大きな意義を感じる。本当に意味ある発表であった。</p> <p>※ この後、社会教育推進員によるグループ討議を行う。 テーマ「今年度の成果について」</p>

上記のとおり、会議の次第を記載し、その相違のないことを証するため、ここに署名する。

議事録署名者 _____